２．大津市龍家文書調査

渡部　凌空

１．概要

龍家文書は、膳所藩南庄村（現大津市伊香立南庄町）で代官や庄屋を勤めた龍家に伝来した文書群で、現在は大津市歴史博物館に寄託されている。同文書群は、その一部が 2019 年に市の指定文化財に登録されており、その後全体調査が行われ、2022 年 11 月に同館の高橋大樹氏から委託依頼があり、2023 年６月に史料の一部を文化情報学研究室へ搬入した。

調査参加者　東昇（教員）、竹中友里代（特任講師）、長谷川巴南（博士前期課程２回生）、渡邊幸奈（４回生）、小原万侑、小島慧音、島村朱音、渡部凌空（以上３回生）、上武恒介（１回生）、フィールド実習参加者、古文書に触れる会参加者（以上１・２回生）

２．内容

写真１　龍家文書搬入の様子

龍家文書は、既に同館にて調査された分を箱１とし、文化情報学研究室ではその追加分の箱２、箱３の調査を行った。箱２（黒漆塗箱）はさらに２箱（杉箱）に分かれており、文書数は合計 96 点で、主に 18 世紀中頃から 19 世紀中頃にかけての触書、争論関係史料、土地売買証文等がある。これらの文書からは当該期の藩政・村政の様子や経済的有力者としての龍家の姿について明らかにすることができる。箱３は木箱、中性紙箱に入れ搬入しており、箱分類と伝来状況に関連性はない。現在までに主に 18 世紀後半から 19 世紀後半にかけての文書 909 点を確認しており、家政や村政に関するもの等内容は多岐にわたる。龍家についての史料には「龍家図并明細帳」があり、文化元年（1804）に同家市右衛門・市郎兵衛が龍骨を発掘した由緒が記される。当地域に特徴的な史料としては、大津宿の助郷関係史料があり、大名通行等に際して集められた人足・賃金等を記した帳簿や助郷免除要求の文書等、南庄村と大津助郷の関わりを詳細に知ることができる。また当地域は「水荒」、「山落」といった自然災害が頻発する地域であったため、普請のための竹木を願う「井川竹木御願帳」等が多数伝来しており、自然災害の被害の実態やそれに対処する藩や村の様子を明らかにすることができ、環境史の視点からも重要な史料と言える。

現在は箱の現状記録、番号付与、一部の史料撮影、翻刻が完了しており、今後は引き続き目録の作成を行う予定である。

編集後記

フィールド集報の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの考古・建築・地理・文化情報の合同実習メニューとして学生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっている。

今年度は、３年ぶりに多様な場所・フィールドで調査をおこなうことができた。調査時だけでなくその後の作業においても多くの方々からご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。

海外の調査も徐々にではあるが再開されるようになった。来年度はまた違うところに行きたいと思う今日この頃である。（き）

京都府立大学文学部歴史学科
フィールド調査集報　第 10 号

編集・発行　京都府立大学文学部歴史学科
〒 606-8522　京都市左京区下鴨半木町 1-5
発　行　日　2024 年 3 月 30 日
印　　刷　株式会社 北斗プリント社
〒 606-8540　京都市左京区下鴨高木町 38-2